☆四日市市立西笹川中学校区の取組

◆事業概要

１　中学校区の現状と課題

中学校区にある四日市市最大の団地、笹川団地は外国人集住地域となっており、団地人口約１万人のうち２割を南米系外国人が占めています。学校においても外国につながりのある児童生徒が３割程度（内、日本語指導が必要な児童生徒は約２割）在籍しています。

外国につながりのある児童生徒には、幼児期から公立保育園・幼稚園に入学し、日本語を覚え、一緒に遊んだり活動したりできる日本人の友だちも多いという子どももいます。しかし、言葉によるコミュニケーションの難しさや、文化・習慣の違いから、他者とのコミュニケーションがうまくとれなかったり、誤解が生じトラブルに発展してしまったりすることもあります。また、孤立し、他者から認められる場面が少なくなってしまい、感情をあまり出せずに自尊感情が高まっていかない子どもの姿もあります。また、日本人の子どもたちの中にも、学習環境が整わなかったり、学習習慣が定着しにくかったりする、教育的に不利な環境のもとにある子どもが少なくありません。

このような状況から、外国につながりのある子どもをはじめ、すべての子どもたちに対して、学力保障をふまえた多文化共生教育が必要であると考え、本事業を実施しました。

２　課題解決のための主な取組

「笹川子ども教室」の取組

昨年度まで、外国につながりのある子どもを対象とした「笹川子ども教室」が運営されていました。今年度からは、笹川子ども教室がこれまで行ってきた日本語学習支援や多文化共生の取組（交流活動）に加え、教育的に不利な環境のもとにあるすべての子どもに対して学習支援を行いました。

地域、学校及び行政の情報共有を強化するために、適宜事業報告を行ってきました。また、開設後も地域の高校生や大学生、教員ＯＢ等、様々な世代のスタッフと教育委員会や行政職員が協議を重ねながら、より効果的な運営を探ってきました。そして、これらのスタッフが子ども教室での学習支援に生かすために、学校の授業も参観しました。

(1) 中学生対象の取組

厳しい生活の中で自尊感情や学習意欲が高まらず、将来に対する希望も持てずにいる子どもたちの姿が見られる一方で、高校進学をめざす子どもたちも増えてきていました。しかし、外国につながりのある生徒にとっては、進学時にも日本語の壁は高く、特に学習言語の習得は容易ではありません。また、学力面で厳しい日本人生徒もいました。

日本語指導や学習支援が必要な生徒を対象に、中学校教職員と笹川子ども教室学習支援員等が、毎日放課後に学習指導を行いました。

(2) 夏休みにおける小学生対象の取組

外国につながりのある子どもたちは、家庭では母語を話すことが多く、学校に登校しない夏休み中に日本語を忘れてしまう傾向があります。また、教科の課題や自由研究等の宿題を提出できない児童が一部に見られます。これは、教育的に不利な環境のもとにある日本人の児童にとっても、程度に差はあるものの同様の課題があります。そこで、これまで小学校では、教職員が学力補充等とともに、宿題提出に向けた支援を行ってきました。本年度は各小学校が行っている夏休みの取組を笹川子ども教室スタッフが支援しました。

学習会の様子

◆実践を振り返って

日本語の指導が必要な子どもや学習環境が整わないすべての子どもに放課後の学習支援の場を提供するという目的で、地域住民が中心となり、そこに学校や園、行政等がネットワークを構築しながら、新しい「笹川子ども教室」を開設しました。

スタッフとして関わる地域住民は、高校生や大学生、教員ＯＢで、地域の課題を共有しながら、10 代の若者から 70 歳を超える方々までが積極的に課題解決のために活動している笹川子ども支援ネットワーク委員会の取組は、全国的に見ても先進的な多文化共生の取組であると同時に、教育的に不利な環境のもとにある子どもたちを支援する取組であると考えています。

地域のエネルギッシュな大学生の支援を受け学習意欲を見せる子どもや、教員ＯＢの優しく粘り強い対応でやる気を出し学習に取り組むようになっていく子どもの姿が見られました。